

日本人のルーツ「港川人」



② 富盛の石彫大獅子 (県指定有形民俗文化財)

勢理グスクにある富盛の石彫大獅子は、火除け(火返し)として、尚貞王21(1689)年に設置されたもので、フィーザン(火山)といわれる八重瀬嶽に向かって建っています。高さ1.54m、全長約1.40m、幅約50cmと、この種の獅子像としては県内最大最古を誇っており、沖縄戦では被弾しながらも今なお、ムラを守り続けています。八重瀬町は富盛の石獅子を含め18体の村落石獅子が残っています。いずれもムラの火除けや魔除け、守り神として17世紀以降に作られました。



④ 当銘・小城の共有龕 (町指定有形民俗文化財)

字当銘と小城が共有する龕は、昔から御拝領龕(グヘーロンガン)と伝えられ、首里王府からの拝領によるものとされています。製造年月日は、龕に道光13年龕巳(1833)8月10日と記されています。以来、毎年8月10日は両字で豚1頭を供え、龕の御願が行われています。また、この龕の年忌祭が龕甲行列といわれるもので、死者供養の年忌と同様に1、2、3、7、13、25、33年ごとに行われます。



③ 世名城のガジュマル (町指定天然記念物/植物)

幹周が約23.5m、高さ約10mで樹齢は推定で250年といわれています。沖縄県環境保健部自然保護課実施の「昭和63年度巨樹巨木林調査」において沖縄一の巨木に選ばれました。



⑤ 上江門家

上江門家は、俗名「安里上江門」と称し、多々名按司の末裔で、1700年代に、多々名グスク近くの古島の地から現在の地に移動したと伝えられています。現存の建物は母屋と豚小屋、屋敷構えが保存されています。



⑦ 具志頭のフク木並木

フク木並木は、1613年、具志頭間切番所が設置された時に、植栽されたといわれており、本数71本、木の高さは高いもので約13m、幹周りは太いもので2.4m、並木の長さは約120mあります。



⑥ 八重瀬町のグスク群

現在、八重瀬町で確認されているグスク時代の遺跡は13遺跡で、そのほとんどが琉球石灰岩丘陵で確認されています。遺跡は主に14世紀から15世紀頃が中心です。この時代、代表的な遺跡として八重瀬グスク、多々名グスク、具志頭グスクがあり、その中でも、八重瀬グスクは汪英紫によって築城され「しものよのぬし」と称して隆盛を極めたと伝えられています。(○はグスクが立地するところ)



(1968年頃)

① 港川フツシャー遺跡 (旧石器時代)

一九六七年、那覇市在住の大山盛保氏によって港川採石場から完全に近い形の人骨化石が発見されました。人骨は「港川人」と名づけられ、形態的特長や年代測定の結果、約一万八千年前のものと推定されました。

現在のところ沖縄県では、旧石器時代の人骨化石や動物化石が九ヶ所から発見されていますが、これまでに発見されたほとんどの人骨化石が断片的なものであるのに対して、港川人は、ほぼ全身の骨格が揃っており、日本人のルーツを知るための貴重な資料として位置づけられています。

港川人がいた時代、八重瀬はヤンバルのような森だった

港川人は石灰岩の裂け目(フィッシュヤー)の中に埋もれて化石になっていました。そのフィッシュヤーから人骨と一緒に動物の骨も見つかっています。今は絶滅しているリュウキュウジカ、リュウキュウムカシキョンのほか、現在でも生息しているイノシシ、トゲネズミ、ヤンバルクイナ、アマミヤマシギ、イシカワガエ

八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館



港川人から謝花昇まで、八重瀬町の1万8千年の歴史をわかりやすく展示しているので、楽しく歴史を学ぶことができます



港川人一号成人男性の身長は一五三センチ、女性三体の平均身長は一四三センチです。体つきは小柄で、上半身は細く下半身は発達していて脚力は強かったようです。また、歯が磨り減っていることから硬い粗末な食べ物を食べていたことがわかります。

骨からわかること

港川人一号成人男性の身長は一五三センチ、女性三体の平均身長は一四三センチです。体つきは小柄で、上半身は細く下半身は発達していて脚力は強かったようです。また、歯が磨り減っていることから硬い粗末な食べ物を食べていたことがわかります。